

Shinsaibashi Reform

Magazine

vol. 7



トレンチコート

The future of the fashion VOL.7
SHIPS MENS CREATIVE ADVISER

鈴木 晴生氏

これからファッションは
どう深化してゆくのか？

様々な角度からその未来を探る

The future of the fashion

前回に続き、シップスのメンズクリエイティブアドバイザーを務める鈴木晴生氏のボーナスバージョンをお届けします。

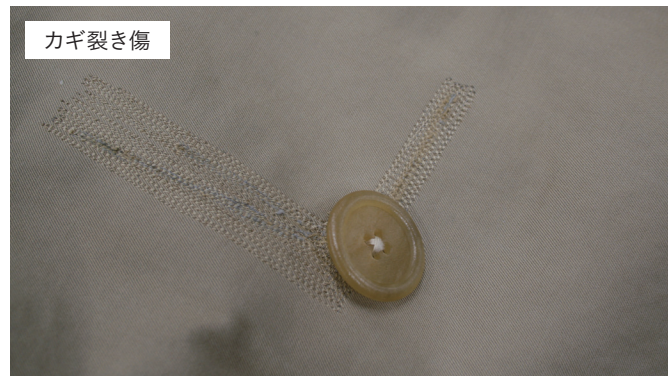
「VAN」、「テイジンメンズショップ」、「エーボンハウス」、「メッサーフリッツ」、「グレンオーバー」と時代を駆け巡り、96年から「SHIPS」のメンズ企画部長に就任。2006年には「ワインレーベル フォー シップス」をスタートさせる。執行役員を経て、現在は同社の顧問を務め、多くの企画で指揮を執る。多くの服に袖を通し、時代を見つめてきた同氏が考える現代のスタイルに着目します。



Q まだ先のこと、と思ううちに秋も深まって、10月も後半になるとスーツやジャケットのうえに羽織るものが欲しくなります。こうした季節の変わり目には元来、ステンカラーやトレンチといった不滅の定番コートが活躍しますが、いつの日からかこの両者はビジネスマンの制服といったイメージが強くなり、お洒落着とは縁遠くなってしまったように感じます。そこで鈴木氏に格好がいいトレンチコートの着こなし方を御享受いただきたいと思います。

まずはご愛用のトレンチコートについて。

鈴木_私が愛用しているのは「アクアスキュータムのキングスゲート」で、1971年にロンドンで購入しました。今ではとくに見かけませんが、このコートは毛芯が使っており、保形性が良く、とてもしっかりと出来ています。とはいえ、ずっと長く着てきましたから襟の縫い目やボタンホールが解れてきたり、カギ裂き傷もありました。



まずはその部分をリペアして貰いました。襟やボタンホールに関してはリペアの後は解りませんが、カギ裂き傷の補修跡は目立つといえば目立ちますが、遠目で見ると殆ど影響がありません。またこうした傷跡も長年愛用してきたいわば自分ならではの味わいだと思えば、まったく気にもなりません。また1971年製ですから、ラベルは広く、着丈も膝下で、全体的にオーバーサイズでした。そうしたディテールやシルエットも心齋橋リフォームさんへお願いしてモダナイズして貰いました。

Q なるほど。かなり自然な仕上がりで時代を感じさせませんね。

鈴木__確かに現在、トレンチコートはビジネスマンの印象しかありません。しかし、これを一着持っていれば、雨の日にはレインコートとして使えるし、着方が選べますからとても汎用性が高い一着ということが出来るでしょう。つまり大人が普段に使うアウターとして、持っていて然るべき、ということなのです。

Q トレンチコートの愛好家の多くはクタクタに着倒した皺だらけのミリタリー調に傾倒しているように思えますが。私的にはコンチネンタルなスタイルの王道と思うのですが、如何お考えでしょう？

鈴木__トレンチコートは1970年代にブームとなりました。当時、それこそ最もモダンなシルエットを携えていたのは、サンローラン製でした。サンローランの提案したトレンチコートはブームの立役者のひとつといえるでしょう。そういう意味では70年代のトレンチコートにはフェミニンな印象もありますが、ルーツは軍服に遡りますから、マスキュランな印象もあります。つまり、軍服とサンローラン、男っぽくも、女性的にも見えます。クラシックとモダンの中間にある類まれなアイテムですから着る人の趣向でいかようにも着こなせると思うのです。

Q ここ数年粋なトレンチ姿の女性を多く見かけますが、メンズは流行りそう
で流行らないですね。

鈴木__トレンチコートはキャラが強いといえますか、アピール力がありますから下手に手を出すと着られてしまうのではないかと躊躇する人が少なくないのは頷けます。私的にはトレンチコートは流行らなくていいと思っています。というのも下手に流行ると折角の定番を駄目にする傾向がありますから。あくまでもさりげなく、流行に関係なく、自分のライフスタイルに合わせて自然に着ることが絶対です。

最後に、鈴木氏にトレンチコートの着こなし3タイプをご披露頂いた。いずれもポイントは、着用するシーンによって着分けること。ボタンの留め方など、アレンジ次第で表情が変わるのはトレンチコートならではの。自然に似合う大人を目指したい。

Next page >>>



こちらが基本形。上のボタンを一つだけ開けて、ラベルが自然にロールするようシンプルに。ちょっとしたVゾーンのあしらいも着こなしのポイントになる。



ボタンをすべて留め、ストームタブも閉める。インナーが殆ど見えないのがポイント。コートディテールとシルエットだけで魅せるのがことのほか美しい。



コートの後ろ襟を立てた着こなし。恐らくこの着こなしが定番かつ最も美しいと筆者は思う。



因みに鈴木氏愛用のコートには台襟部分が立ち上がらないように手揉みと呼ばれるディテールが施されている。襟の後ろだけが立ち上がる美しいシルエットはこのディテールから生まれる。

次号からは靴に合わせた着こなし提案を
シューズデザイナーの坪内浩氏に
御享受いただきます。
どうぞお楽しみに。

取材協力

SHIPS シップス 銀座店

TEL : 03-3564-5547

URL : www.shipsltd.co.jp